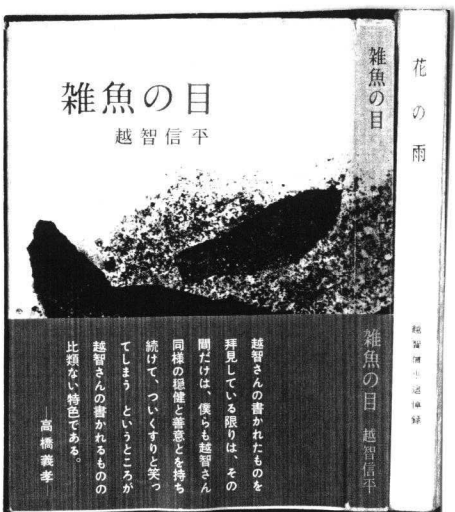


越智信平 しまろい 隨筆家、小説家、編輯者。明治四十一年四月五日愛媛縣松山市大山町生れ、昭和二十九年四月八日没（一九九一歳）。藤立松山商業學校を経て、昭和十年法政大學高等師範部英語科卒。十二年佐々木文郎と月刊誌『山を行く』を創刊。十六年『作家精神』同人となり、『長編』『插話』、『海』、『みれん』等を發表。一方は活多摩川撮影所を経て、東京足立中學校、國土館中學校で英語教師を務めたのち、十九年國際電気株式会社（戦後通信省に合併）、兼日本電信電話公社とつたるいに入社。二十四年宣傳課機關誌『電信電話』編輯長、二十八年辭職してダイヤル社を設立、電電公社部外宣傳誌『ダイヤル』を創刊した。

著書『隨筆集』『尋ね当らぬ』（昭和二十九年十一月十五日四季社）『四季新書』、『コトつゞき』（昭和二十一年四月五日四季社）『四季新書』、『雑魚の目』（昭和二十四年十月二十日大江書院）、小説『赤いランブ』（昭和二十六年十一月二十五日圭文館）等。遺稿を含む『花の雨』越智信平追悼録』（昭和四十年四月八日越智啓子刊）がある。



越智さんの書かれたものを
拜見している限りは、その
間だけは、僕も越智さん
同様の軽健と善意を持ち
続けて、ついでついでと笑っ
てしまうところか
比類ない特色である。
高橋義孝